

令和3年度(2021年度)学校評価の結果と考察

長野県寿台養護学校 学校評価委員会

1 アンケートの実施形態

- ・ 昨年度とほぼ同様の質問事項10項目について、無記名のアンケートを、保護者と教職員に実施した。
- ・ Googleフォームを利用。文書と一斉配信メールでURLを通知した。

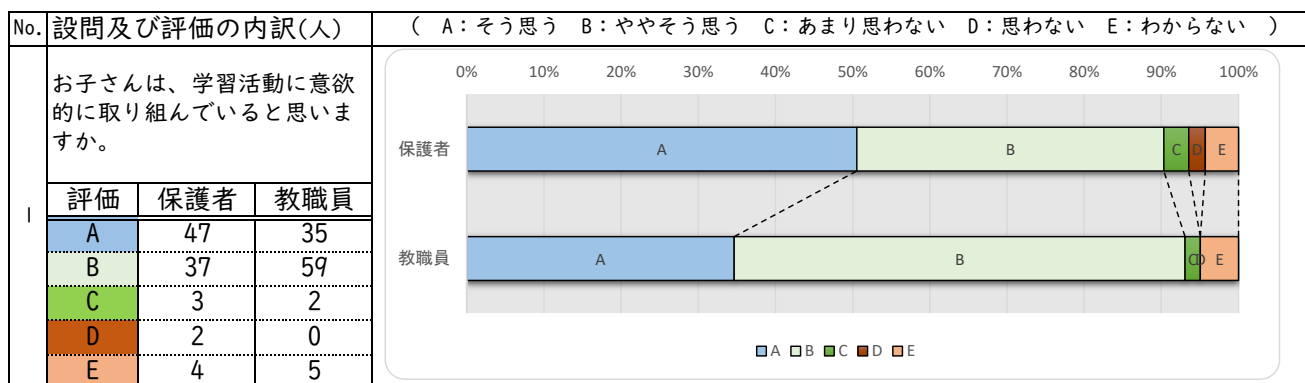
2 アンケート回収率

保護者 64% (昨年度は78%)

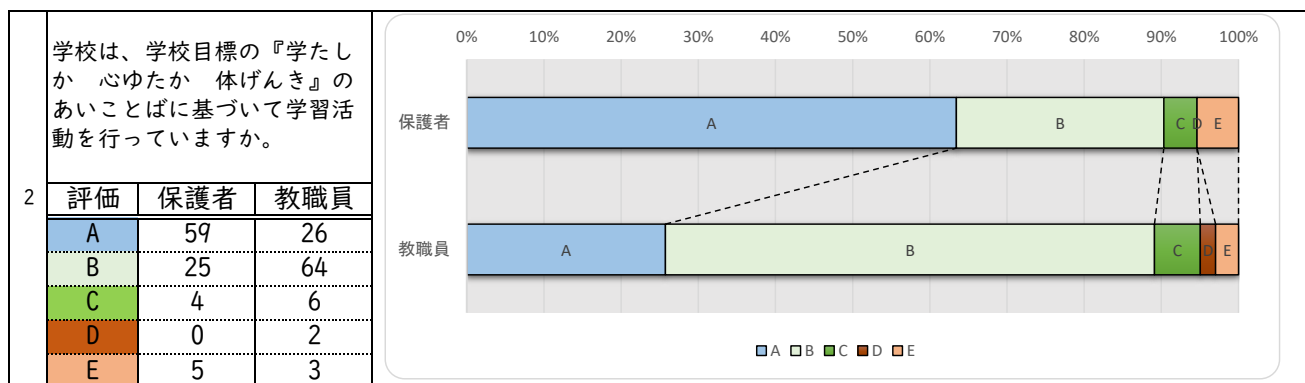
教職員 92% (昨年度は100%)

昨年度より回答率が低下した。部のおたよりや一斉配信メールを利用して、回答の呼びかけを増やしたい。

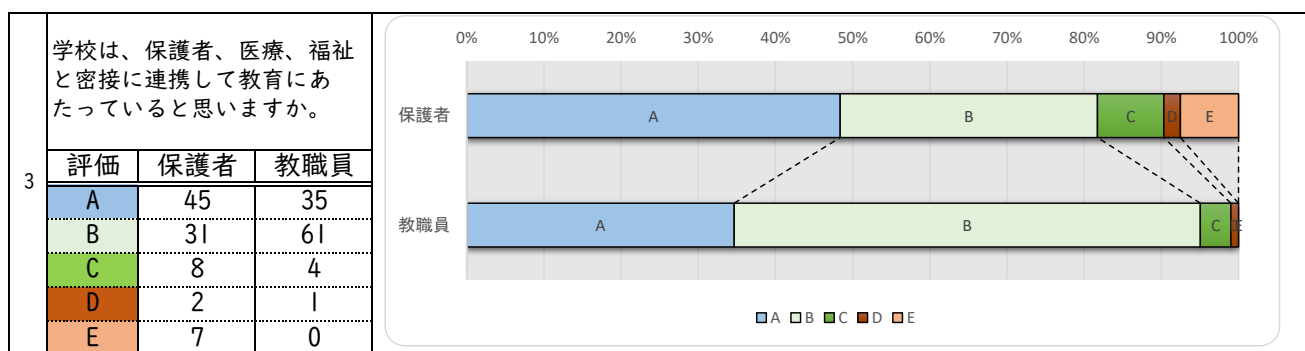
3 アンケート結果と考察



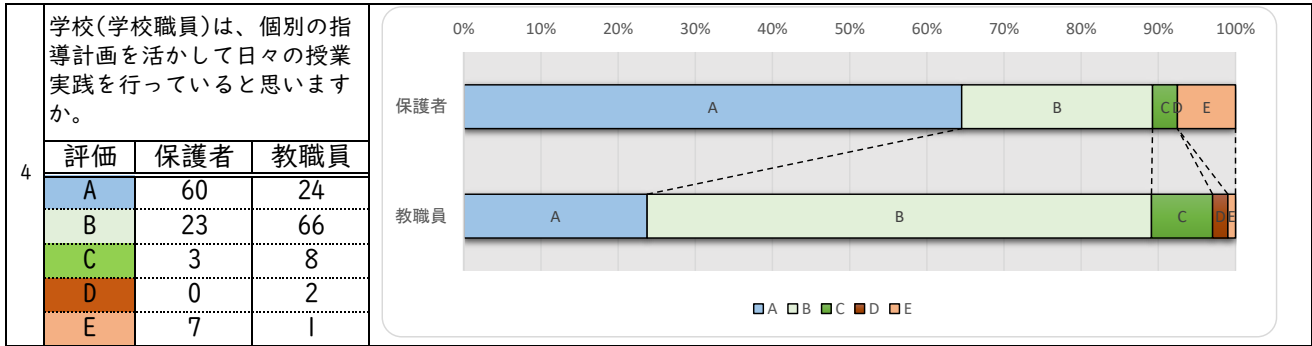
多くの保護者から良い評価をいただいている。反面、厳しい評価もあることを常に心に留め、児童生徒一人一人がより意欲的に取り組むことができる授業を目指していきたい。



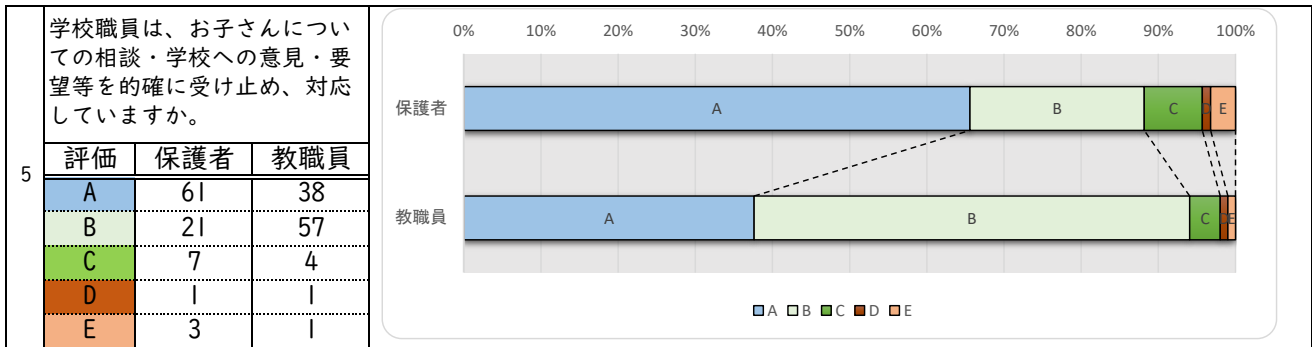
保護者と教職員のA評価に相違がある。教職員は現状に満足せず、さらに向上していこうと思っている傾向が強いためと考えられる。あいことばに基づいた学習活動に疑問を感じている保護者もおられるので、日々の教育活動で取り残している子どもがいないか、定期的に振り返っていく必要がある。



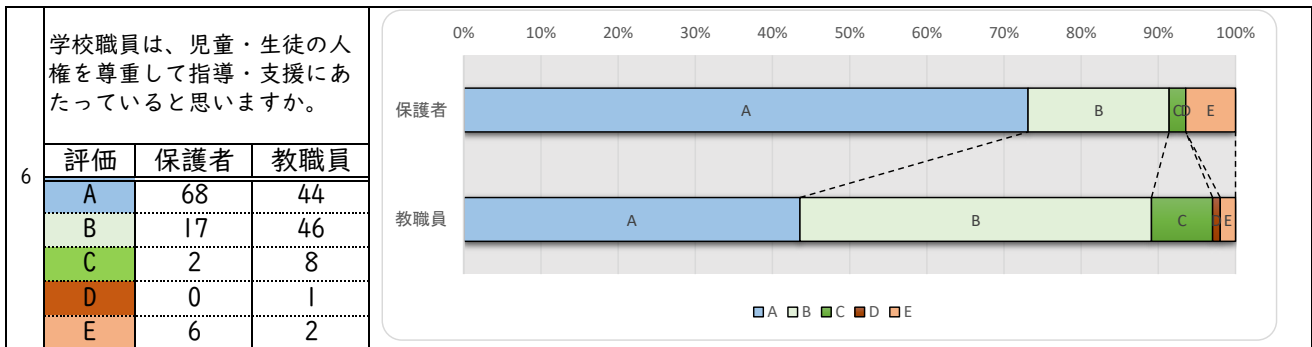
保護者からのあまり良くない評価の割合が高い項目である。コロナ禍により、担任が病院へ一緒に行ったり、リハビリや放課後等デイサービスの見学をしたりすることが難しいことも要因として考えられる。支援者がチームとなって連携していることを、目に見える形で保護者に発信していく努力をする必要がある。



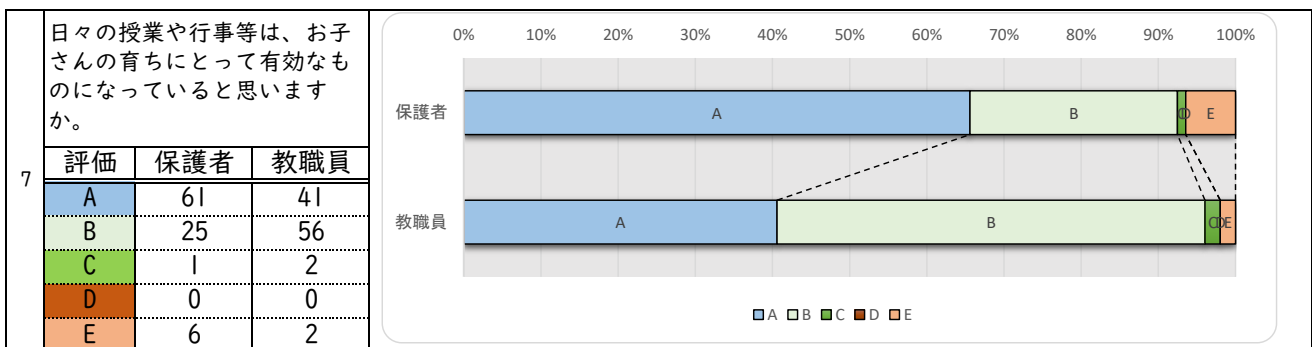
教職員の評価が低い傾向にあるのは、個別の指導計画をもっと実践に活かしたいという向上心の表れであると考えます。来年度は新形式の個別の指導計画になるので、さらに研修を積むとともに、個別の指導計画を反映させた授業づくりをして、それを保護者に伝えていきたい。



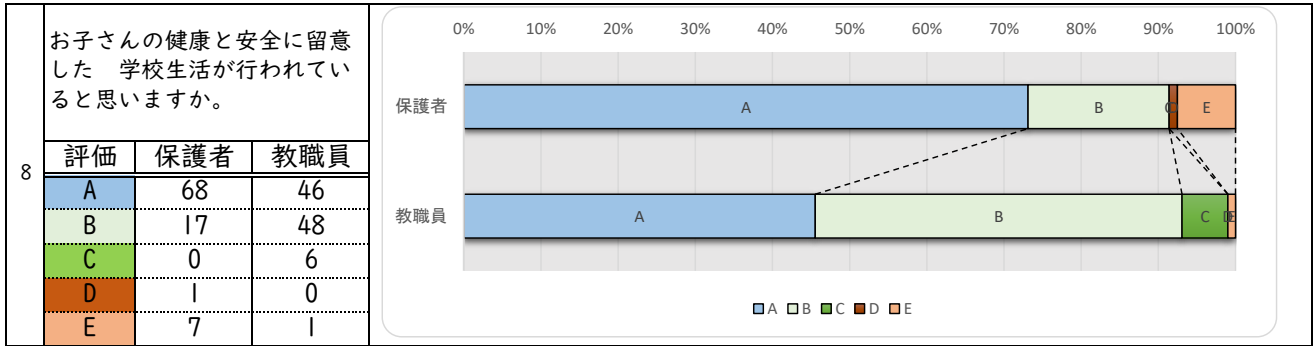
9割近くの保護者から高い評価をいただいた。保護者からの声を職員間で共有する場をもち、さらに児童生徒理解を深めて的確に対応できるようにしたい。



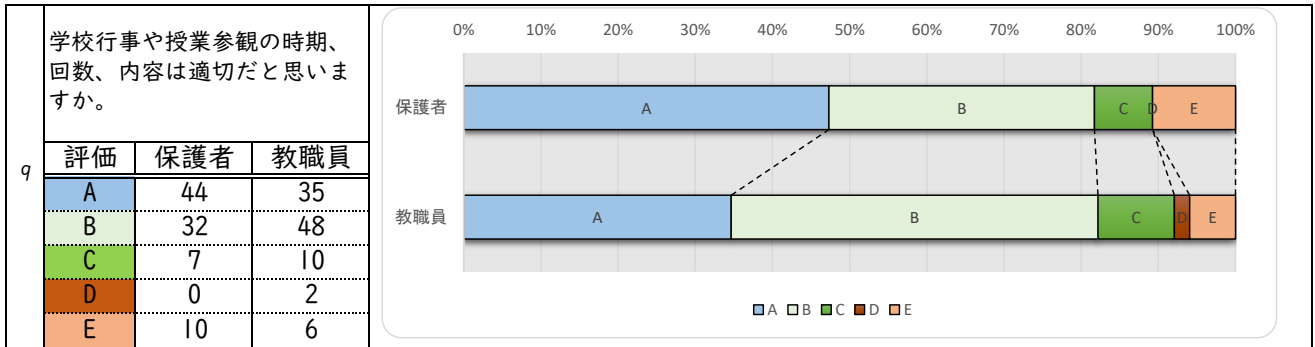
保護者の9割以上が概ね「思う」との評価で、人権を尊重しての指導・支援を心がけていることが認められていると考える。職員間の連携や研修を通して、これからも人権感覚を磨いていくよう努める。



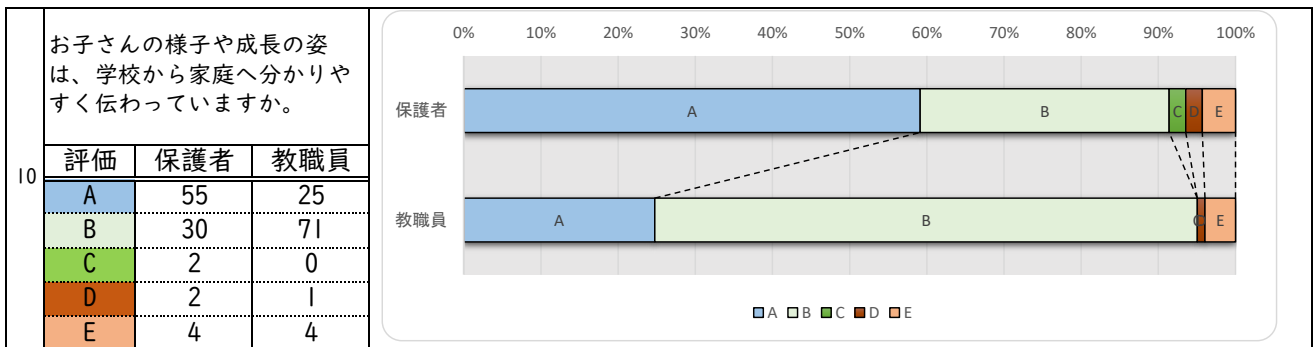
保護者からは9割以上の良い評価をいただいたが、「わからない」との回答もあった。行事や授業を通して児童生徒がどのように成長しているのか、よりわかりやすく伝える工夫をしていきたい。



ほとんどが好意的な評価であるが、教職員の中でCの評価が少し多い。活動場所の制限などから、実際の活動の中で感じられる不安や、より良い環境の中で安全に学校生活を送りたいとの思いが教職員の中にあるのではないかと考える。



昨年度よりも、AとBの評価の割合が減ったが、実際に参観していただく機会が増え、活動の様子を見ることができたことで好意的なご意見が多かった。回数については賛否評論あった。



保護者の9割以上から高評価をいただいている。教職員のA評価が少ないのは、わかりやすく伝える努力はしているが、本当に保護者に伝わっているのかどうか心配している表れと考える。今後も懇談会や参観日の折などにも児童生徒の様子を伝えていくようにしたい。

4 学校評価委員会の考察（まとめ）

(1) 学校評価アンケートからみた本年度の成果

- ・概ね好意的な評価をいただいている。日頃の支援について肯定的にとらえてくださっている意見が多く、学校としては励みにしていきたい。反面、一部の低評価や意見をしっかりと受け止めて、改善に努めたい。
- ・教職員が子どもたちに常に優しく寄り添って関わっていることで、児童生徒の成長に対して、保護者から感謝の言葉を多くいただくことにつながった。
- ・授業や行事が子どもの育ちに効果的であると感じている保護者が多い。コロナ禍であっても工夫して参観の機会を設け、実際の活動の様子を見ていただくことができた。

(2) 前年度比較からの考察

- ・ 設問7～10は、昨年度に比べて保護者のC・D評価が減った。特に、新型コロナウイルス感染症予防のための対策をとっていることに対して、好意的に認めていただいているものとする。
- ・ 教職員は全ての設問で昨年度よりA評価が減っている。現状に満足せず、課題意識を持っている教職員が多いためだろう。
- ・ 健康安全面に対するA評価が増えたことは、昨年度から引き続き、新型コロナウイルス感染症予防対策など安全面を徹底してきた成果と考える。継続していきたい。
- ・ 昨年度よりAB評価の割合が減っている設問が多い。教室の狭さ、長引く工事など、学習活動に集中できる環境を整えることも大事な要素であるとする。
- ・ 「わからない」と回答している保護者の割合が増えている。日々の生活の様子をより分かりやすく伝える努力をしていきたい。

(3) 今後も継続的に取り組むこと

- ・ 個別の指導計画をもとにした毎日の授業の充実を大事にする。そのための児童生徒理解及び教材研究に、いっそう力を入れていきたい。
- ・ アンケートにいただいたご意見を真摯に受け止めて、改善策を考えていく。
- ・ 一人ひとりの児童生徒を大切にするとともに、保護者の思いに寄り添った対応を心がけていく。
- ・ 保護者に対して積極的に連絡を取り、日頃の成長をより丁寧に伝えていく。

(4) 来年度大切に取り組みたいこと

- ・ 「個別の指導計画」について、保護者と話し合いながらねらいを共有し、日々の授業の中で意識して学習活動を行う。
- ・ コロナ禍で時間的にも場所的にも制約がある状況だが、保護者と連絡・相談を重ねて内容の濃い連携ができるようにしたい。
- ・ 同じ設問でも、保護者と教職員とでとらえ方の違いがある。それを踏まえた上で保護者の思いを大事に取り組んでいく。
- ・ 松ろうキャンパスや院内教室との連携が未だ不十分な点があるので、より丁寧に連絡を取り合っていく。

5 学校評議員からの意見

- ・ 先生方ご自身の評価が低いことが気になる。自分に厳しく評価しているのだろう。子どもにとって一番身近に接している先生たちが、自信をもってほしい。また、充実感を得られるといい。
- ・ E「わからない」という評価があるのはしかたない。ただし、個別の指導計画については、より分かりやすく伝えたり、ねらいを共有したりしていくと、E評価は減らせるのではないかと。
- ・ 医療や福祉との連携については、一緒にチームとして学校をサポートする形をとっていきたい。
- ・ E評価をしている人は同じ人物なのか。包括的にうまくいかない気持ちをもっているのであれば、それに対する取り組みが必要かもしれない。
- ・ 直接的に対応することで満足感が得られるものである。送迎の時のちょっとした一言だけでも積み重ねが大事。支援会議等で学校に訪問すると、先生方があいさつしてくれる。校内には素敵な掲示物もある。そういう良さが保護者にもっと伝わっていくといい。
- ・ 回答率が低く3分の1が回答していない。わからない状態や興味のない人が増えているのかもしれない。回答率が上がるようにしてほしい。
- ・ 教職員の思いが保護者に伝わらない状態もある。わかりやすく伝える手だてが必要。先生方ががんばっていることを伝えたい。
- ・ どの項目もABが8割以上という高い評価。E評価は、わからないだけでなく気になることがあるのではないかと。
- ・ 障害が重度の人の支援ほど、適切な成長のために世の中にある方策を積極的に取り入れてほしい。